

自己評価シート令和7年度反省

1. 本園の教育目標

幼児の主体的な遊びを十分に確保し、遊びを通じて心身ともに強い身体作りをすることや、遊びの中で友達や保育者と関わることで幼児期にふさわしい社会性の育成を目指している。また、恵まれた自然環境の中で様々な体験をすることで、情操豊かで健全な育成を目指す。

2. 本年度重点的に取り組む目標、課題

- ・異年齢保育を通しての学び
- ・子どもの興味が湧く楽しい保育を目指して
- ・子ども主体の遊びへの取り組み

3. 評価項目の達成、および取り組み状況、反省点など

【子ども主体の遊びへの取り組みが出来ているか】

<前期> ・○～5人 ・△～7人 ・×～1人

○子どもの意見を取り入れ、環境構成や遊びへの取り組みを改善できた。

○子どもの提案で遊びが発展したり、ゲームを考えたりすることが出来た。

○子どもの取り組みたい遊びを重視して日々取り組むことが出来た。

○子どもの意見を、自由遊びの中で工夫しながら取り入れてきた。

△遊び方について大人が提案してしまう場面もあった。

△子どもの意見を聞き入れることが難しい事があった。

△活動中は子ども主体にならない事が多かった。

△×まだ子どもの遊びが成立しない様子だったので、提案することが多かった。

<後期> ・○～12人 ・△～1人 ・×～0人

○子どもがしたい遊びを積極的に発言し、取り組むことが出来た。

○子どもたちから意見が出るようになり、実践できる機会が増えた。

○子どもたちの成長もあり、子どもが主となる活動が多かった。

○隙間時間に子どもの意見を取り入れ保育に生かせることが出来た。

○自分達で遊びを考え、楽しむことが多かった。

○子ども達からの遊びのリクエストがあり、環境や材料などを提供できた。

△自由遊びの中で発展した遊びの環境設定までもっと考えたい。

【幼児の活動が尊重できているか】

<前期>・〇～9人 ・△～4人 ・×～0人

- 子どものペースに合わせて関わるように心がけ実践してきた。
- 制作では、子どもの取り組みを尊重することが出来た。
- 子どもの意見を取り入れて保育に取り組むことが出来た。
- 子どもの気持ちを汲み取りながら日々過ごすように心がけてきた。
- 子どもたちが毎日遊びを楽しみ、満足していた。
- △保育者の都合に合わせて活動することがあった。
- △活動に余裕がない時など、保育者主体になってしまうことがあった。
- △時間に余裕がない時もあり、出来ない事も多かった。

<後期>・〇～8人 ・△～5人 ・×～0人

- 遊びや活動の中で子どもの意見や行動を尊重して取り入れることが出来た。
- 子どもの様子を見ながら、活動に取り組むことが出来た。
- 子どもから出た発想や気持ちを受け止め、尊重しながら関わることに努めた。
- 子どもの意見を遊戯会などで多く取り入れることが出来た。
- 子ども自身が目標をもって様々な事に取り組んでいた。
- 子どもたちの意見を取り入れることで、急な活動の変更もあったが、対応できていたと思う。
- △日々の活動に追われ、子どもたちの要望を聞き入れられない事があった。
- △行事があると時間が限られてしまい、子供の意見を尊重できなかった。

【子どもが楽しめる活動の創意、工夫を行っているか】

<前期>・〇～7人 ・△～6人 ・×～0人

- 子どもが楽しいと感じてもらえるような活動を考え、実践している。
- 状況に合わせて、活動を工夫してきた。
- 子どもの様子に合わせて声掛けや保育の内容を臨機応変に対応し、楽しめるように工夫してきた。
- 新しい活動に挑戦し、楽しんでもらえた。
- 子どもの興味が湧いたものを追求出来るようにリサーチして保育に取り入れるようにしてきた。
- △行事に追われ、なかなかできない事があった。
- △新しい事に挑戦して、工夫することが出来なかった。
- △楽しいだろうと思って取り組んだことがそうでもない時があった。
- △自分自身が必死で余裕がなかった。

<後期>・〇～11人 ・△～2人 ・×～0人

- クラスに合わせ、余裕を持った活動を計画し楽しめていた。
- クラス全員に笑顔を！を目標に、活動を工夫して取り組めた。

○子どもの提案もあり、活動が盛り上がるが多かった。

○子どもたちの声を聞くように努力した。

○子どもたちの意見を尊重して、実現することが出来た。

△制作では時間が取れず、出来ない事があった。

△いつも同じ活動が多くなってしまった。

【異年齢交流の取り組みについての子どもに対する配慮や実践が出来ているか】

＜前期＞・○～3人 ・△～9人 ・×～1人

○各学年との交流を行い、兄弟のいる子や同じバスコースの子と関りを持てるようにした。

○先生方で話し合っ交流の機会を持った。みんなが楽しめるような企画も考えた。

○違う学年と一緒にゲームをして、フォークダンスを踊るなどの取り組みを行った。

△クラス単位の活動が多く異年齢との関りを持つ機会が少なかった。

△異年齢交流の機会があったが、もっと子どもも保育者も満足いく活動であるべきだった。

△自由遊びの中で交流がもっとできたのではないかと思う。

×年齢に応じた適切な配慮に欠けていたと思う。

＜後期＞・○～6人 ・△～6人 ・×～1人

○頻りに違う学年と一緒に遊ぶ機会を持てた。年中組に和太鼓やよさこいの踊りを教え、交流が持てた。

○保育中、自由遊び中も交流するようになり、年長児としての自覚が芽生えてきていた。

○後期では、園生活にも慣れてきたため異年齢交流に不安を感じることなく楽しんでくれていた。

○年齢に応じた対応に心がけ、楽しい関りになるように実践した。

△学期末に行った雪中運動会で、年中組と交流することでお互いに楽しい活動になるように話し合ったので、次年度もそういった取り組みをしたいと思った。

△もう少し積極的に関りが出来たら良かった。

△各学年で時間を合わせるのが難しかった。

×計画外の異年齢交流は、自分から声を掛けられなかった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・○～12人

・子どもが楽しめる活動を考え、様々なことをやってみようという気持ちで取り組むことが出来たように感じる。

・工夫した言葉がけをして、子ども達に考える機会を持ち、たくさん意見を聞き出した。楽しく過ごせたことが良かった。

・幼稚園の特徴である恵まれた自然環境の中で、子どもが主体となって四季を感じながら遊びを楽しむことが出来た。異年齢の関りからの育ちを意識して一緒に遊べる機会をもう少し増やせたら良かった。自分自身がモデルとなって楽しい保育、わくわくする保育を考え、一緒に楽しい遊びになるように働

きかけていきたい。

- 日々の保育を行う中で、保育者一人一人が実践してみて良かったことなどを意見交換したり、子ども達の姿を見て保育の進め方を工夫したり子ども達が楽しめる事を1番に考えて取り組めた。
- 年間を通しての子供の成長と共に、主体的な活動に取り組めるようになったり、目標で異年齢の交流があったので沢山関わって遊びを教えてもらうことが出来た。
- 一人一人の成長に合わせた保育を心掛けて出来たと思う。
- 子ども達のやりたい気持ちを尊重し、主体的に遊びを楽しめるように関わることが出来た。異年齢保育においても年長への憧れや年少児への思いやり等、関りの広がりが見られ、楽しい活動となった。
- 1年を通して、他の学年との交流を沢山持つことが出来、縦のつながりが強まったと感じた。自由遊びや設定保育では、子ども達主体で遊びを行うこと出来ていたと思う。
- 異年齢を通して年下の子に優しく接する事を学び、年長さんからのよさこい、太鼓指導で意欲が持てたと思う。
- 異年齢交流の機会を多く持てたことは、子ども達の学びや成長が多く、1年間の幼稚園生活を充実して過ごせたと思う。
- △~1人
- 幼児の活動や遊びに関しては、子ども達の意見を聞き入れ少しずつ取り入れられるようになった。全体で異年齢交流の計画が少なく、計画外では行えなかった。

5. 今後取り組むべき課題

- 保育環境の工夫
- 子どもの主体性の尊重
- 引き続き異年齢との交流
- 子ども主体の遊びでの環境設定
- 支援が必要な子への対応
- 保育の質の向上
- 園内研修の強化
- 子どもの遊びの発展や工夫
- 子ども自身が考える力を身に付けられるような保育
- 集団での関りを深める
- 子ども主体の遊びへの取り組み
- 先生方の幼稚園としての取り組みの理解、共有
- 安全に過ごせる幼稚園の過ごし方、環境作り
- 自由遊びの発展
- 設定保育の工夫